



アクサダイレクト

# 2022 Annual Report

アクサ損害保険の現状

# グローバルに展開するアクサグループ

アクサは1817年にフランスで生まれ、世界50の国と地域、約9,500万人のお客さまにサービスを提供する、保険および資産運用分野の世界的なリーディングカンパニーです。

約**9,500**万人のお客さま

**50**の国と地域で事業展開

約**14万9**千人の従業員

**AA-**  
S&P 保険財務力格付け

**Aa3**  
Moody's 保険財務格付

**AA-**  
Fitch 保険会社財務格付

SOCIALLY RESPONSIBLE INVESTMENT RATINGS

Score:  
**A+**  
UN Principles  
for Responsible  
Investment

Score:  
Rank  
**7/297**  
in sector  
Sustainalytics

Score:  
**4.4/5**  
FTSE ESG

Score:  
**68/100**  
ウィジオ・アイリス  
Sector leader

Score:  
**87/100**  
ダウ・ジョーンズ・  
サステナビリティ・  
インデックス

Rating:  
**AAA**  
MSCI  
(ESG rating)

約**12兆9,782**億円(約999億ユーロ)  
総売上

約**8,781**億円(約67.6億ユーロ)  
アンダーライニング・アーニングス

約**137兆6,392**億円(約10,510億ユーロ)  
運用資産総額

約**9,472**億円(約72.9億ユーロ)  
純利益

数値等は2021年アクサグループ実績。SOCIALLY RESPONSIBLE INVESTMENT RATINGS・格付け等は、2022年6月30日現在のものです。

※ 換算レート

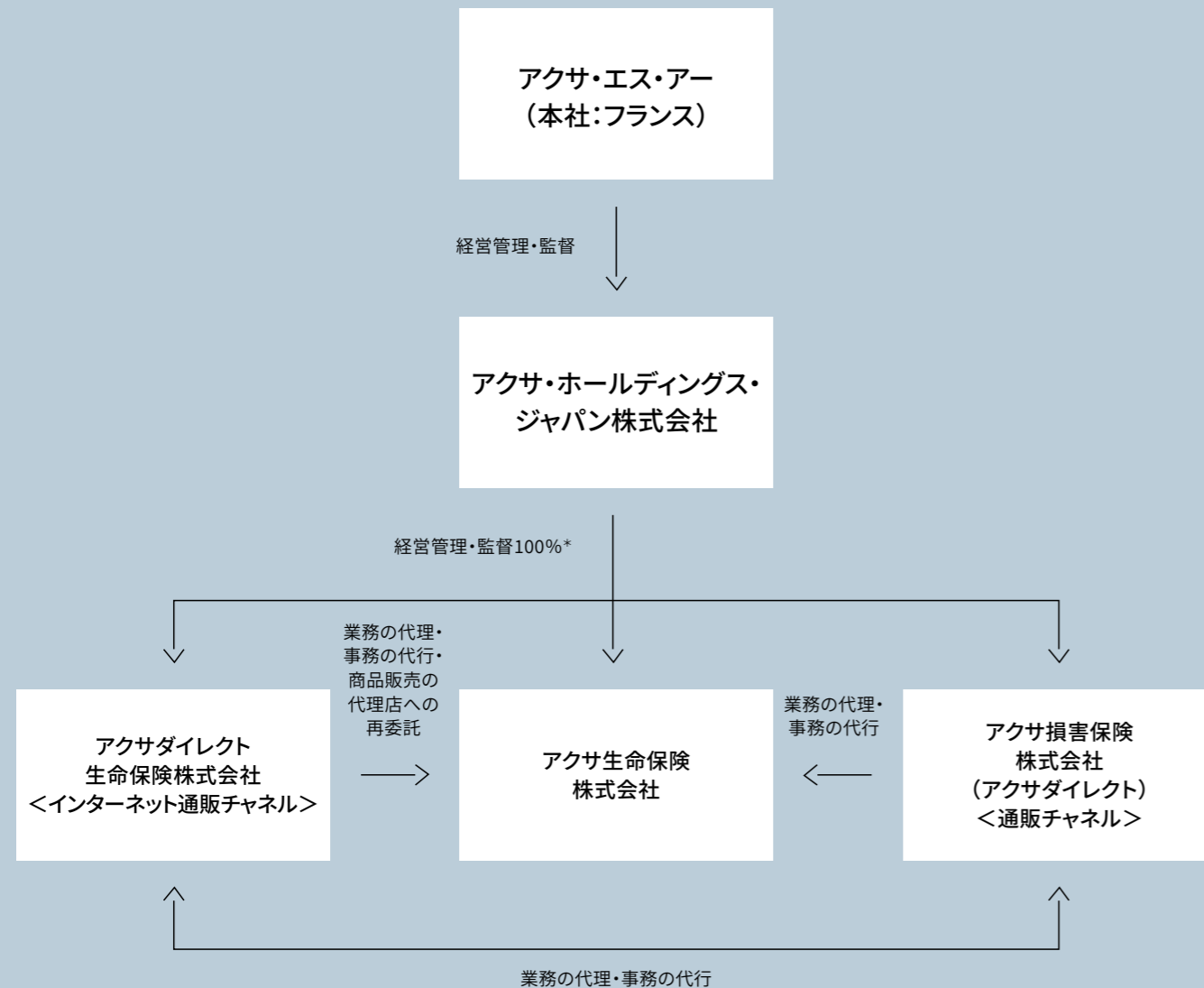
総売上、アンダーライニング・アーニングス、純利益：1ユーロ=¥129.872 (2021年平均)

運用資産総額：1ユーロ=¥130.954 (2021年12月末)

※ 標記の格付けはアクサ損害保険の格付けではありません。S&P Global Ratings、Moody's Investors Service、Fitch Ratingsの格付けは、アクサグループの主要な子会社に対する格付機関の評価日時点(S&P Global Ratings:2022年3月28日、Moody's Investors Service:2021年6月15日、Fitch Ratings:2022年5月16日)のものであり、保険金支払等について保証を行うものではありません。また、将来的には変化する可能性があります。なお、これらの格付機関は、日本において金融商品取引法第66条の27に基づく登録を行った信用格付業者ではありません。

# アクサグループの日本における事業展開

アクサグループは日本において、保険事業、資産運用事業、アシスタンス事業など、多岐にわたるビジネスを展開しています。保険事業では2019年4月に持株会社であるアクサ・ホールディングス・ジャパン株式会社を設立し、アクサ生命、アクサダイレクト生命、アクサ損害保険を子会社としています。保険3社が相互に連携を深めるとともに、その他のアクサグループの日本におけるメンバーカンパニーと密接に連携しながら、お客さまをリスクからお守りするための商品・サービスをご提供しています。



\*アクサ・ホールディングス・ジャパン株式会社が所有する議決権の割合(2022年6月30日時点)

## ■ その他のメンバーカンパニー

### 資産運用サービス

- アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社

### 不動産投資・資産管理サービス

- アクサ・リアル・エステート・インベストメント・マネージャーズ・ジャパン株式会社

### アシスタンスサービス

- アクサ・アシスタンス・ジャパン株式会社

### その他のサービス

- アクサ収納サービス株式会社\*\*
- XLカトリンジャパン株式会社
- アクサ・ウェルス・マネジメント株式会社\*\*

\*\* アクサ・ホールディングス・ジャパン株式会社の子会社です。

アクサ・ホールディングス・ジャパンは、傘下の保険会社3社の多様な接点を通じて、変化するお客さまのニーズに的確なアドバイスやサービス、最適な保険商品でお応えしています。

## アクサ損害保険(アクサダイレクト)

アクサダイレクトは、1998年に設立され、翌年7月より営業を開始し、現在は主に自動車・バイク保険、ペット保険を販売しているアクサのメンバーカンパニーです。個人のお客さまを対象とした「アクサダイレクト総合自動車保険」は好調な販売を続け、保有契約件数は110万件を超えています。

### 主要な業務の内容

#### 損害保険業免許に基づく保険の引受け

保険業法第3条第5項に係る保険の引受けを行っています。

#### 資産の運用

保険料として収受した金銭などの資産の運用として、主に有価証券投資などを行っています。

#### 他の保険会社の保険業に係る業務の代理または事務の代行

保険業法第98条第1項第1号に基づき、他の保険会社の保険業に係る業務の代理または事務の代行を行っています(アクサダイレクト生命保険株式会社の保険業に係る業務の代理および事務の代行など)。

## アクサ生命

アクサ生命はアクサのメンバーカンパニーとして1994年に設立されました。アクサが世界で培ってきた知識と経験を活かし、277万のお客さまから522万件のご契約をお引き受けしています。前身企業の一つである日本団体生命が1934年の創業以来築いてきた全国511の商工会議所、民間企業、官公庁とのパートナーシップを通じて、死亡保障や医療・がん保障、資産形成などの幅広い商品、企業福利の増進やライフマネジメント®\*\*に関するアドバイスをお届けしています。

※ライフマネジメントはアクサ生命保険株式会社の登録商標です。

## アクサダイレクト生命

アクサダイレクト生命は、2008年4月より営業を開始した日本初のインターネット専業生命保険会社です。アクサのメンバーカンパニーとして生命保険のダイレクトビジネスを担う生命保険会社として、アクサ生命、アクサ損害保険と相互に連携し、シンプルで合理的かつ手頃な保険商品、デジタル技術を活用した便利で革新的なサービスをご提供しています。お客さまがいつでもどこでも安心してご契約いただけるよう、様々なタッチポイントで保険選びをサポートしています。





# アクサグループと日本におけるアクサの歩み

## 日本におけるアクサの沿革



## アクサグループの沿革



**1991**  
30年にわたるアクサハーツインアクション

アクサハーツインアクションは、従業員が地域社会の課題解決に寄り添い、時間を寄付するボランティアプログラムとして、1991年に創設されました。コーポレート・レスポンスイビリティのマテリアリティ領域である「社会的公正の是正とインクルージョン」、「気候変動と環境」、「健康と病気予防」を中心に、活動を展開。38か国からの55,000人を超えるボランティアで構成され、障がい者や環境問題、リスクを予防する教育などの取り組みを支援しています。



**2008**  
アクサリサーチファンド

2008年、アクサは「環境」、「健康」、「テクノロジーとデータ」、「社会・経済」に関するリスクの理解と予防をテーマにした基礎研究を支援する「アクサリサーチファンド」を設立しました。日本ではこれまで5つのプロジェクトに約3億円を拠出しています。2020年には、新型コロナウイルスの感染拡大に対応するため、パスツール研究所のパンデミックに対応するプロジェクトを支援しました。



**2019**  
地球温暖化対策への強いコミットメント宣言

2019年11月、国連の持続可能な保険原則(UN PSI)との連携により開催した「AXA Climate Impact Day (アクサ気候変動インパクト・デイ)」において、気候戦略とターゲットを公表しました。

- 1.5°C:2050年までにアクサの投資の「地球温暖化係数」を1.5°C以下に抑える
- 0% 石炭: 欧州およびOECDは2030年までに、その他の地域では2040年までに石炭への投資と保険引受を0%にする
- 1億ユーロ: エネルギー移行を進める企業への融資を目的とした初の「トランジション・ボンド」を創設
- 240億ユーロ(現在では260億ユーロ): 2023年までのグリーン投資



**2021**  
AXA for Progress Indexの公表

アクサは、サステナビリティ戦略の進捗を測定し、その影響を強化するためのツールとしてAXA for Progress Indexを公表しました。気候変動と包括的な保護を柱とするサステナビリティ戦略の影響を評価するため、保険会社として、投資家として、模範的企業として、それぞれの立場で7つの測定可能なコミットメントを掲げ、このインデックスを通じてモニタリングします。さらに7つのコミットメントのうちこのインデックスは5つが地球温暖化に関連しているため、気候は特に重要となっています。アクサのパーパスである「Act for human progress by protecting what matters」に基づいた戦略計画「ドライビング・プログレス 2023」に沿ったものとなっています。





# OUR PURPOSE

— パーパス 私たちの存在意義 —

## Act for human progress by protecting what matters

すべての人々のより良い未来のために。私たちはみなさんの大切なものを守ります。

アクサはステークホルダーの皆さまとともに持続可能な価値の共創を目指します。



リレーションシップ

財務関連

関わる人々

外部からの評価

社会と環境

### リソース

個人・法人のお客さまに商品・サービスをご提供しています。

投資家の皆さまに株式や債券をご購入いただくことによって、ビジネス遂行に必要な資本を確保しています。

従業員の多様な個性やビジネスにおける専門性が、アクサの効率的で収益性の高い、堅実な経営を支えています。また、私たちは代理店やブローカー、金融機関などのディストリビューターと緊密に連携しています。

商品やサービスの提供を受けている外部委託先と緊密に連携しています。また、保険事業のルールを定める規制当局とも連携を図っています。

ステークホルダーの皆さまの信頼とサポートによって有益な事業運営を行うことができている。私たちの日常業務は環境資源に支えられています。

お客さま

株主

従業員・ディストリビューター

企業・行政機関

地域社会

### インパクト

私たちのサービスと予防啓発の取り組みは、お客さまの資産を守り、安心をご提供します。

定期的に配当や利子をお支払いするとともに、長期的な投資によって安定的な財務基盤を確保します。

従業員の能力を開発し公正な報酬を支払っています。ディストリビューターには締結した合意内容に従って報酬を支払い、キャリアを全面的に支援しています。

私たちは、信頼されるパートナーとして、協働している企業をサポートし、成長に向けた投資を行っています。また、倫理的な企業として、政府や規制当局と連携を図っています。

多様な人々が加入・利用しやすい商品の提供や投資、環境や地域社会の課題解決に資する取り組みなどを通じて、社会にポジティブなインパクトをもたらしています。

## — VISION —

Payer to Partner

保険金・給付金をお支払いする「ペイヤー」の役割を超え、より良い人生、より良い社会づくりに寄り添う「パートナー」となる

## — STRATEGY —

#ONE AXA 2023 - お客さまと共に

## — OUR VALUES —



お客さま第一



勇気



誠実



ひとつのチーム



# パーパスを遂行するために アクサの持続可能性を高める取り組みと戦略

アクサのパーパスは、アクサグループとグループ企業における戦略的な意思決定の指針であり、従業員にとっては日々の活動のフレームワークとなるものです。

アクサグループは、戦略的取り組みを計測可能な指標で管理、モニタリングを行うとともに、インパクトを増強するためのツールとして、「AXA for Progress Index」を導入しました。

この指標は、気候変動対策においてリーダーになること、そして、インクルーシブ(包摂的)な保険会社になること、というアクサが目指す2つの持続可能な開発戦略を反映しています。指標を構成する7つのコミットメントに関して、アクサグループは達成状況をモニターするとともに、アクサグループ企業はモニターされた達成状況のデータを参照することができます。

## OUR PURPOSE - パーパス 私たちの存在意義 -

ドライビング・プログレス 2023  
Driving Progress 2023

サステナビリティ戦略  
Sustainability Strategy

## AXA for Progress Index - 評価指標 -

### 投資家として

私たちはお客さまや社会がカーボンニュートラルを実現するうえで役立つサポートを提供します。

### 保険会社として

私たちは困難な状況の中でサポートが必要な人々に対する保障を提供します。

### 模範となる企業として

私たちは、温室効果ガスの発生を抑制し、ポジティブなインパクトを高めるために、共に行動します。

## AXA for Progress Index - 評価指標 -

### 投資家として

- 2025年までにアクサのポートフォリオから20%カーボンフットプリントを削減 対2019年 **-20%**
- 2023年までにグリーン投資を260億ユーロまで増加させる **260億ユーロ**

### 保険会社として

- グリーン・インシュアランス・プロダクト(環境に配慮した保険商品):  
グリーンビジネスを拡大し、2023年までに保険料収入で13億ユーロを実現する **13億ユーロ**
- インクルーシブ・プロテクション(困難な状況の中でサポートが必要な人々に対する保障の提供):  
インクルーシブな保障に加入するお客さまを倍増させ、2023年までに1,200万人に保障を提供する **1,200万人**

### 模範となる企業として

- 気候変動に起因する社会的課題に対する従業員の理解を促す取り組み:eラーニング受講率を2023年までに100%とし、従業員の気候変動に関するスキル向上を図り、変革を主導する **100%**
- 2025年までにカーボンニュートラルを達成:グループ内における二酸化炭素排出量を20%削減(エネルギーや出張、デジタル機器)。残りの排出量を相殺する **-20%**

## 責任ある企業としての地位を維持

ダウ・ジョーンズ・サステナビリティ・インデックス

**87/100**

DJSI/CSA SCORE

保険会社としてのコミットメントを強固なものとするために、  
2022年に2つの新しい指標を「AXA for Progress Index」に統合します。

### インクルーシブ・プロテクションに関する指標:

生命や健康に重大な危害が生じる健康危機の発生による社会的  
不公正が拡大する中で、これまで保険をご利用いただけなかった  
社会的に弱い立場にいる人々のニーズに合わせたサービスや  
ソリューションを開発し、画期的な販売モデルを模索することに  
よって保障を提供するという思いを強くしています。

### グリーン・インシュアランスに関する指標:

アクサは、温室効果ガスの排出削減、気候変動の影響に対応する  
ためのお客さまへのサポート、サーキュラーエコノミー(循環型  
経済)への移行支援、生物多様性の損失と汚染の抑制という4つ  
の目標のいずれかに貢献することにより、環境にポジティブな  
インパクトを与える保険ソリューションの開発を加速させたい  
と考えています。



# 環境を守るためのアクサグループの取り組み

## 気候変動対策における主導的地位を維持するために

アクサグループは、2017年12月に開催された気候変動サミット「One Planet Summit」で石炭関連ビジネスへの投資を大幅に削減するとともに、再生可能エネルギーに投資を振り向ける計画を発表しました。アクサグループCEOトーマス・ブベルは、「このまま放置した場合に想定される平均気温が4度も上昇する世界では、保険の提供は不可能になる。世界規模の保険会社や投資家の役割が鍵を握る」と述べています。2019年11月、アクサグループは国連の持続可能な保険原則（UN PSI）との連携により開催された「AXA Climate Impact Day（アクサ気候変動インパクト・デイ）」において、以下の新たな気候戦略のターゲットを公表しました。



アクサグループ チーフエグゼクティブオフィサー  
トーマス・ブベル

## アクサの気候変動に対するコミットメント



\*2019年11月時点では240億ユーロ

## ネットゼロ・アセットオーナー・アライアンスに参画し、 ネットゼロ・インシュアランス・アライアンスの設立をリード

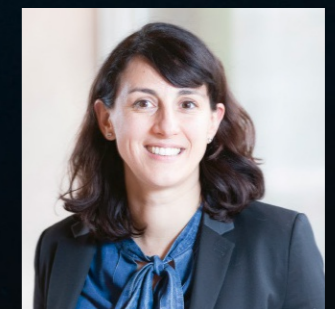
ネットゼロ・アセットオーナー・アライアンスは、気温上昇を1.5°C未満に抑えるパリ協定の目標達成を目指して、2050年までの運用ポートフォリオのカーボンニュートラル（温室効果ガス排出量実質ゼロ）にコミットするアセットオーナーのイニシアチブです。2019年、国連環境計画・金融イニシアティブ（UNEP FI）と国連責任投資原則（PRI）の主導により設立され、世界的な保険会社や年金基金等を含む73機関が加盟しており、加盟機関合計の運用資産総額は10兆ドル以上にのぼります（2022年6月時点）。

2020年12月6日、国連の招集により、アクサは「ネットゼロ・インシュアランス・アライアンス（NZIA）」設立を呼びかけました。NZIAはアクサを含む世界の大手保険・再保険会社が参画し、アクサのチーフリスクオフィサーが議長を務めます。2021年11月にグラスゴーで開催されたCOP26を前に、保険ビジネスに「気候中立」（クライメート・ニュートラルリティ）を拡大するという目標を掲げ、活動を開始しました。国連気候変動枠組条約事務局が推進する「ゼロへのレース」Race to Zero campaignをサポートするとともに、気候中立を推進するイニシアチブである「グラスゴー・ファイナンシャル・アライアンス・フォー・ネットゼロ（GFANZ）」にも参画することを誓約しています。トーマス・ブベルはGFANZにおいて基調講演を行いました。



アクサグループ チーフリスクオフィサー  
ルノー・ギデ

気候関連財務情報開示タスクフォース（Taskforce on Climate-related Financial Disclosures:TCFD）に続く、自然資本等に関する企業のリスク管理と開示枠組みを構築するために設立された国際的組織・自然関連財務情報開示タスクフォース（Taskforce on Nature-related Financial Disclosures:TNFD）に、アクサグループのチーフサステナビリティオフィサー セリーヌ・スプランヌが参画しています。



アクサグループ チーフサステナビリティオフィサー  
セリーヌ・スプランヌ

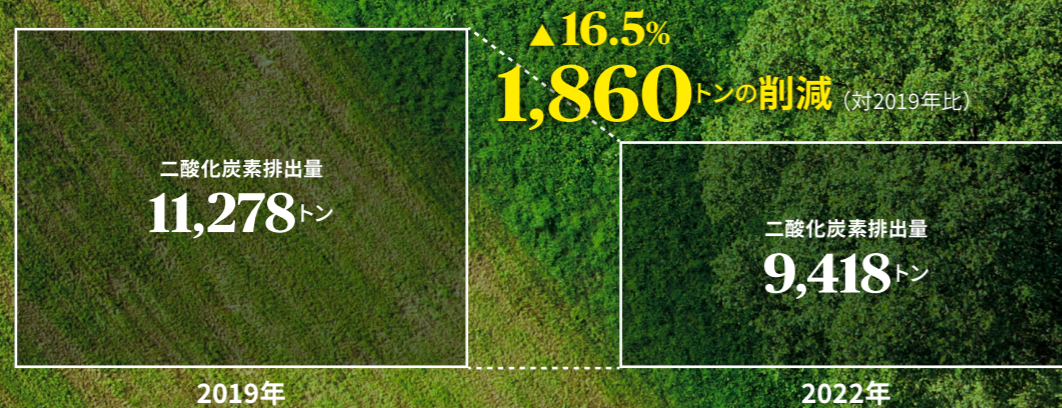


# 環境を守るための日本におけるアクサの取り組み

## カーボンニュートラルの実現を目指す取り組み

アクサ・ホールディングス・ジャパンは、カーボンニュートラルを実現するための「気候リーダーシップ」を経営戦略である「#ONE AXA 2023—お客さまと共に」に組み込み、傘下のアクサ生命、アクサ損害保険（以下、アクサダイレクト）、アクサダイレクト生命の保険3社のアクションプランを策定しました。2019年の二酸化炭素排出量11,278トンに対し、2022年は16.5%（1,860トン）の削減を目指します。

### これまでの削減実績と数値目標について



※2019年の排出量は、デロイト トーマツ サステナビリティ株式会社の温室効果ガス(GHG)排出量・削減量検証により算出  
 ※2019年から2021年にかけては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、在宅勤務やオンライン会議、オンラインセミナーの急速な普及などによって、二酸化炭素排出量削減が加速  
 ※2023-2025年の間で、451トンの追加削減を計画

### 2022年のアクションプランと数値目標

#### 再生可能エネルギーへの切り替え

2022年6月1日より、東京本社オフィスの総電力使用量の約50%に相当する、照明および電源エネルギーを全て再生可能エネルギーに切り替え

#### 出張の削減と最適化

SAF(持続可能な航空燃料)導入の航空会社の利用推進、オンライン会議へのシフト

#### 効率的な電子機器の利用

在庫数の最適化によるタブレット数の削減など

#### 社用車のハイブリッド車両(HV)への切り替え

順次切り替えを行うとともに、エコ運転を社内啓発

#### ペーパーレスプログラムの実行

デジタル化による紙の削減、書類の電子化

## 日本におけるグリーン投資について

環境負荷を軽減するグリーンボンドや不動産への投資を加速

2023年までにグリーン投資を260億ユーロまで増加させるというグループの方針に沿って、アクサ生命においてもグリーン投資を進めています。投資対象は、グリーンボンド、環境に配慮した不動産、インフラストラクチャーや社会的課題の解決につながるビジネスを展開する企業を投資対象とするインパクトファンドなどで、幅広い資産に分散投資を行っています。



## 「アクサ気候アカデミー」について

気候変動に関する従業員のリテラシーを向上

アクサ生命、アクサダイレクト、アクサダイレクト生命は、気候変動に関するアクサグループのeラーニングプログラム「アクサ気候アカデミー」を従業員に受講させることで気候変動の基礎知識とビジネスに与える影響の理解を促進し、気候戦略の遂行を加速。また本プログラムの内容を、将来的には地域社会のステークホルダーの皆さまにもご活用いただくことを検討しています。

Learn the science	Rethink the business perspective	Commit to change	Time to Transform
<b>Chapter 1</b> 気候変動の基礎知識 Basic Knowledge of Climate Change	<b>Chapter 2</b> アクサのお客さまへの影響、業界や投資はどうか？ What Will Happen to Our Customers, Insurance Industry, and Investment?	<b>Chapter 3</b> 気候に優しい行動とは？ What are Friendly-Behaviors to Climate?	<b>Guide</b> チームで何ができるかを考えるための参考情報 A guide which can be referred when you want to create actions with your team members

## “AXA Week for Good”について

気候変動対策、生物多様性の保全に向け従業員の行動を促す取り組み

AXA Week for Goodは年に1度開催しているアクサグループのグローバルイベントです。アクサのパーパスのもと、地域社会や地球がより良い未来に向けて進化し続けるために私たちが個人やチーム、会社としてできることを、広い視野で考え、行動するきっかけとすることを目的としています。2022年6月20日(月)～6月24日(金)までの1週間、全世界のグループ企業の従業員が参加し、気候変動対策や生物多様性の保全の重要性に対する理解を深め、フィールドワークを通じて地域の課題を自分事として捉え、解決に向けた行動を促すイベントを開催しました。





## 気候変動へのアクサダイレクトの取り組み

異常気象や自然災害は企業だけでなく、すべてのステークホルダーの皆さまにとって大きなリスクです。多面的に気候変動アクションに取り組むことで、アクサのパーパスを体現してまいります。

### 気候変動問題に対する取り組み

近年多発する台風や豪雨などの異常気象は企業だけでなく、お客さまをはじめ、すべてのステークホルダーの皆さまにとって大きなリスクです。「すべての人々のより良い未来のために。私たちはみなさんの大切なものを守ります。」というアクサのパーパス（存在意義）と当社はアクサグループの気候変動戦略に沿って、模範的企業として、機関投資家として、保険会社として多面的に気候変動問題に取り組んでいます。更に、気候変動問題に関心を寄せる社員が集まり、自主的な活動を行うERG（エンプロイヤー・リソース・グループ）を立ち上げ、従業員が率いるボトムアップ活動も行っています。

模範的企業の活動としては、アクサグループの戦略に沿って、気温上昇、エネルギー消費、二酸化炭素排出削減量、緑化投資、カーボンニュートラル等において定量的目標を設定しており、

設定した二酸化炭素排出量や資源の削減目標を達成するべくさまざまなデジタル化によるペーパーレスの取り組みを推進し、IT緑化にも力を入れています。

機関投資家としては、グリーン投資を進めており、具体的には再生可能エネルギー関連分野への積極投資、化石燃料を消費する企業への投資からの撤退などのアクションを実施し、投資収益率と環境への配慮のバランスを図っています。

保険会社として、気候変動を意識した新しい商品・サービス開発も進めており、今後も環境に配慮した事業推進を行ってまいります。

今後もデジタルトランスフォーメーションによる抜本的な構造変革により、長期的に環境保護に取り組んでまいります。

### 責任投資についての取り組み

当社は、2018年3月より、アクサグループが2015年に開始した7年間にわたる気候改善リーダーシッププログラムに参加し、太陽光発電をはじめとするプロジェクトへの積極的な投資を開始しました。2019年には調達した資金使途が環境改善に限定される、いわゆる、グリーンボンドの購入を開始し、今日にいたるまで、グリーンポートフォリオを強化してきています。この取り組みには、石炭を消費する企業投資の削減も含まれますが、化石燃料全般への投資を制限するガイドラインに基づいて投資を行ってきています。

2021年には、当社はさらにグリーン投資活動を強化し、アクサグループの新しい気候戦略とパリ協定に適合した資産運用を行ってきました。<sup>※1</sup>主として大型太陽光発電プロジェクトへの投融資により、太陽光エネルギーへの直接投資を拡大し、また、世界規模で調達資金の使途が地球環境改善および社会課題解決に限定される、いわゆる、サステナブルボンドをターゲットにした銘柄群にも投資を開始しています。2022年3月末時点

のグリーン資産総額は、運用資産総額の2%を超える結果となり、2022年度には、投資収益とのバランスを考えながら、この投資割合をさらに増やしてまいります。

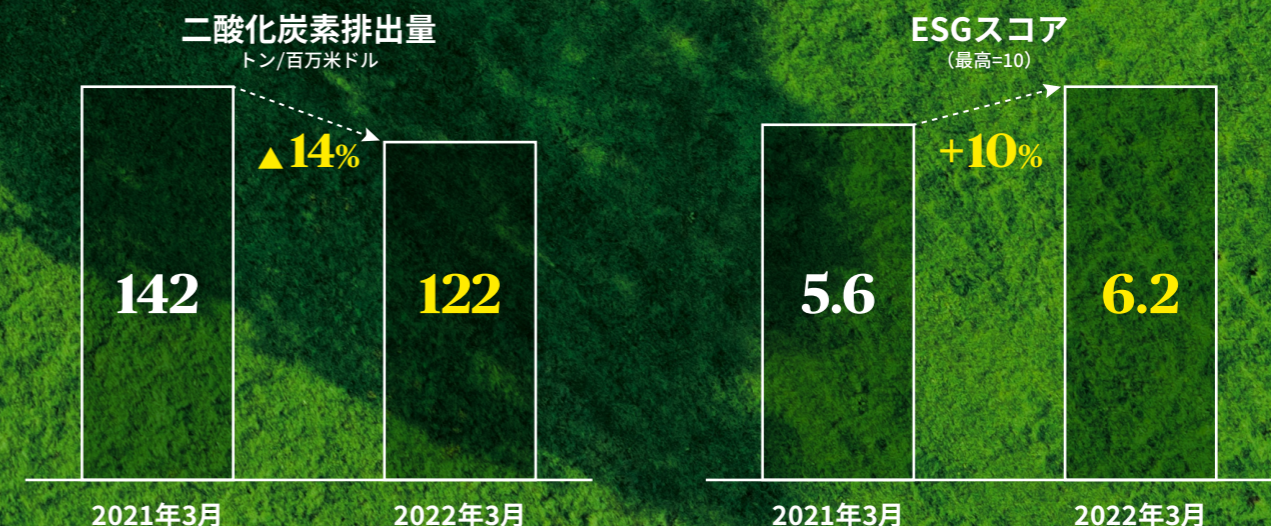
また、アクサグループでは、2019年から2025年の6年間で、二酸化炭素排出量の20%削減という目標に向けて取り組んでいます。当社では、2021年にすべての石炭関連資産の売却を完了しました。この結果、当社の投資ポートフォリオ全体の二酸化炭素排出量は、収益百万米ドルあたり142トンから122トンに減少しました（年率14%の減少）。2021年3月末時点では、炭素集約型直接投資がなくなり、今後も気候変動に配慮した投資を行ってまいります。

なお、当社およびアクサグループでは、ESGスコア<sup>※2</sup>指標を算出・使用して、日々の投資活動の評価・管理をしています。現在、当社の金融資産のおおよそ8割は、このESGスコアでカバーされています。前年比、2022年3月末時点で、ポートフォリオ全体のESGスコアは10%改善し、6.2となっています。

### 私たちの存在意義「パーパス」

#### OUR PURPOSE

すべての人々のより良い未来のために。  
私たちはみなさんの大切なものを守ります。  
Act for human progress by protecting what matters.



※1: 詳しくは<https://unfccc.int/process-and-meetings/the-paris-agreement/the-paris-agreement>をご覧ください

※2: ESGは、環境、社会、コーポレートガバナンスの略。アクサでは、ESG要因を定量化し、保有エクスポージャーに最低0から最高10までの範囲でスコアリングをしています。